2015 第1回 これからの建築士賞

「建築士」は日本の都市と建築にかかわる重要な職能資格であり、設計監理、施工、行政、教育、まちづくり、発注者など幅広い業務に携わりながら、未来につながる社会の実現のため努力してきました。近年では防災、環境、高齢化と人口減少、歴史文化の喪失など多くの課題の中で、その専門的な知見を生かしながら、魅力的な社会、街並み、建築空間の実現を目指して活動しています。
なかでも最近は他の建築関係の会とも連携し、それぞれの地域をベースにした協働も盛んになってきており、これらの新たな活動が大きな波となって地域社会の未来に力となる事も期待されています。多様な分野における建築士ならではの新しい動きに光を当て、顕彰し、支援するとともに広く世の中に伝えようとするのが「これからの建築士賞」の目的です。

募集要項

賞の対象

都市と建築に関わる近年の活動や業績で、設計監理、施工、行政、教育、まちづくり、発注など建築士としての多様な立場を通じて行った未来につながる社会貢献に対して、その活動・業績を担った建築士もしくはそのグループを顕彰する。
未来につながる社会貢献とは、たとえば、美しい景観の形成、安全で魅力的なまちづくりや空間の提案、自然環境や歴史的環境の保全、地球温暖化・人口減少・高齢化社会に対する提案、弱者に対する対策、文化・にぎわい・コミュニティの創出、建築に関する啓蒙・普及など多様であるが、さらに、これからの建築士の仕事を開拓するような、従来の建築士の枠を拡げる活動の応募も大いに期待したい。

名称及び受賞数

これからの建築士賞　5点程度

応募資格

原則として建築士もしくは建築士を含むグループで、活動のベースが東京にあること。
審査員が直接係った案件は応募対象から除外される。また審査員が所属する事務所、グループが審査対象となる場合は、その案件に係る一切の審査から外れるものとする。

応募方法

別紙候補推薦書に記入の上、必要に応じて参考資料をA4用紙3枚以内にまとめて、事務局まで提出のこと。関係資料は返却されないものとする。郵送、メールによるデータの送付も可能。候補推薦書は東京建築士会ホームページからダウンロード可能。自薦、他薦を問わない。

審査員

吉良 森子（moriko kira architect／神戸芸術工科大学客員教授）
倉方 俊輔（建築史家／大阪市立大学准教授）
中村 勉（東京建築士会 会長／中村勉総合計画事務所）

審査経緯

今年あらたにスタートした“これからの建築士賞”は、社会のいろいろな立場で専門技術やノウハウを利用して様々な活動を行う建築士の有意義な活動に光を当て、これからの建築士の幅の広い活動を支えていこうとするものです。

2015年2月2日から4月13日まで、57件の応募があった。

4月30日　倉方俊輔氏、吉良森子氏、中村勉氏による第一次審査会が行われた。各審査員は事前に提案書を読 み込んだ上で、1件ずつ審査を行い、原則2人以上の推薦を得た17件を二次審査対象とした。

5月13日　一次審査で選定した17件について、3人の審査員により、再度1件ずつ詳細な検討を行った。建築士ならではの専門性、活動の持続性、活動の新しさと社会に対する影響の大きさ、建築士としての活 動領域の拡大と業としての経済的観点、国際性、人間性、独立性、そして、他団体ではなく建築士会として推薦することの妥当性など重要な評価軸に議論し、最終的に、6件が、2人以上の推薦を得て、これからの建築士賞に決定した。

5月21日　東京建築士会理事会にて承認された。

審査講評の通り、57件の応募案は内容、活動の幅とも非常に充実した状況であり、受賞案の詳細や講評とそれらに対する講評とともに、それ以外のすべての案を公に紹介し、社会に建築士の活動の幅の広さを知っていただくとともに、さらに効果的な活動となるように支援していきたいという事になり、7月11日のシンポジウムとその後の書籍化が準備されているところです。

審査結果

入賞6点（応募点数57点）

1	業績名	建築を生きる
	候補者名	岩崎 駿介
2	業績名	ザンビアのマタニティハウス　妊産婦死亡低減のための施設の建築、教育啓発活動 ～命を守る施設を 地域住民自らが建築できる力を育む～
	候補者名	遠藤 幹子（一般社団法人 マザー・アーキテクチュア）
3	業績名	ご近所のぜいたく空間“銭湯”
	候補者名	文京建築会ユース
4	業績名	不動産企画、設計監理、不動産流通のシームレスな融合による空間づくり
	候補者名	株式会社スピーク
5	業績名	HandiHouse project
	候補者名	荒木 伸哉、加藤 渓一、坂田 裕貴、中田 裕一、山崎 大輔
6	業績名	近代住宅遺産の継承に関する活動
	候補者名	一般社団法人 住宅遺産トラスト

病んだ地球が心配だから

もっと、自然の恵みを取り入れた

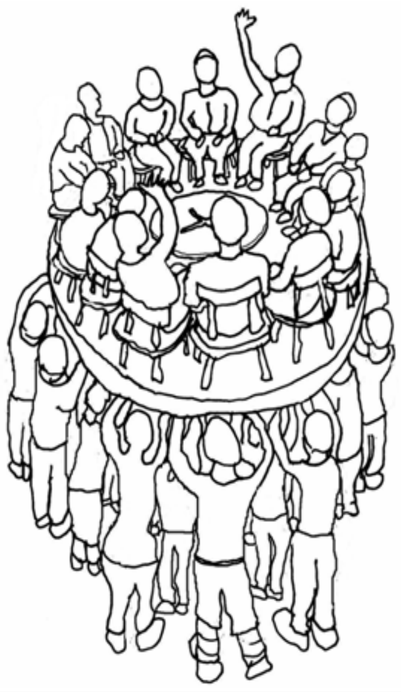
街と家を作っていこう！

これからの建築士賞「建築を生きる」岩崎駿介

われわれ建築 都市 そして地球の空間造形にかかわるもの、
いかなる事情においても「醜いもの」を作ってはならない。

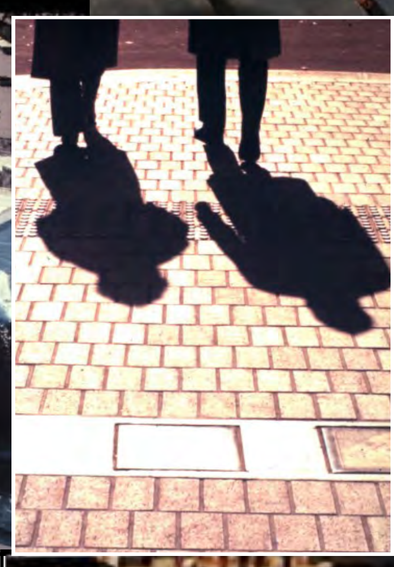
高く、高く・・・ピラミッド、教会、都市、ロケット、
そして資本主義経済システム。

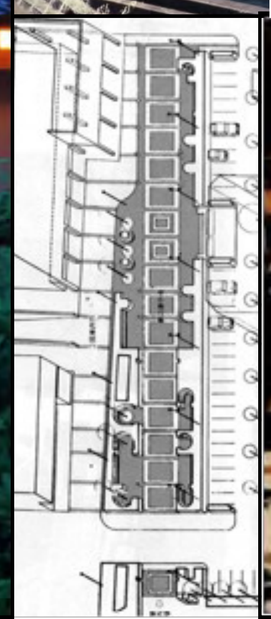
途上国の人に支えれた
大きなお盆の上で、
楽しく語り合う日本社会の人々



カンボジアの虐殺記念館

今後、どう生きるか？
地球に生きる一人の人間として、
心を 地球化(Globalization)」し、
身体を 地域化(Localization)」しよう！





ザンビアのマタニティハウス

～命を守る施設を 地域住民自らが建築できる力を育む～

遠藤幹子／一級建築士、Mother Architecture 代表理事

アフリカのサハラ以南地域のザンビア共和国、未だ妊産婦死亡率が日本の 40 倍である農村地域で、国際協力 NGO ジョイセフが「妊産婦支援プロジェクト」を現地 NGO、外務省、民間企業ほか、多数の協力によって 2011 年から実施してきた。一級建築士の遠藤幹子は、「妊産婦支援プロジェクト」の一環として実施された安全なお産のための施設「マタニティハウス（出産待機ハウス）」の企画・設計デザインを専門家として担っている。

課題

国連のミレニアム開発目標（MDG’s）でも近年の最重要項目として掲げられているとおり、妊産婦死亡の低減は乳幼児死亡や貧困などの負の連鎖を断ち切るために、早急に解決すべき課題である。ザンビアの農村部でも、いざ陣痛が始まっても助産士のいる診療所までは徒歩何時間もかかってしまうため、衛生状態の悪い自宅での専門家なしの出産が多く行われおり、緊急時の手当不足などにより未だ多くの命が失われている。新たな診療所の増設が現実的に難しいなか、既存の診療所へいかに多くの妊産婦を呼び込むかが解決の鍵である。

手法

●コミュニティ人材の育成

国際協力 NGO ジョイセフの「妊産婦支援プロジェクト」では、ザンビアの農村地域でコミュニティ・ヘルス・ワーカー（母子保健推進員）を育成し、彼らの教育啓発活動を通じて村人たちの診療所での妊産婦健診や出産を促進する活動を行っている。

●マタニティハウスの計画

コミュニティ・ヘルスワーカーの人材を活用し、より多くの妊産婦を診療所に呼び込むため、助産士のいる診療所の隣に予定日の２週間前から無料宿泊できる「マタニティハウス」の建築計画が2011年から始まった。いざ陣痛が始まったらすぐに助産士の適切な処置を受けられるための、妊婦たちの滞在場所の提供が目的である。

●使用済みコンテナの再利用

低予算で迅速に建設するため、日本からの物資輸送に使われたコンテナを再利用して建物は作られている。このサスティナブルな物語は多くの賛同を得ており、支援者の獲得にも貢献している。

●住民参加によるペインティング・ワークショップ

愛着を育て施設の有効性を広く周知するため、住民の手でコンテナを楽しく彩って建物を完成させるワークショップを行い、完成後には村人や要人が集まっての盛大なセレモニーが開かれている。

●歌と踊り、デザインガイドブックにより教育普及活動

外部援助の終了後も自ら計画を進められるよう、一連の計画プロセスを楽しく覚えるための歌と踊りを作り、デザインガイドブックや模型キットを使って村々に普及する活動を行っている。

生み出した価値

Empowerするデザイン

社会問題の解決には当事者である地域住民の行動力が欠かせない。彼らを建築計画の担い手として育成するこの手法は、その潜在能力を引き上げ、自信と主体性を大きく伸ばすことに貢献している。

コミュニティが主体

地域住民が主体となることで、彼らの施設への責任意識が芽生え、完成後も主体的な運営参加が行われている。また外部建築家では読み取れない土地風土情報を的確に反影でき、より使いやすい建築計画が実現している。

クリエイティブ・リユース

「あるものを自分たちの手で仕立て直す」という知恵は、急速な都市化が進み資本なしでは必要施設を作れないという村人の劣等感を排除し、彼らのチャレンジ精神とモチベーションアップに大いに貢献している。

知恵のフィードバック

「ないものは自分で作る」「大事なことは歌や踊りで教えあう」という彼らのプリミティブな創造力は、先進国の我々にも大きな勇気を与え、日本の災害支援や地域デザイン従事者から手法参照の要請が多く寄せられている。

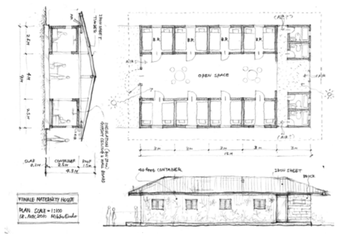
オープン・シェア

物やお金は使ったら終わりだが知恵は他者へ伝えることで更なる問題をする。住民自らが伝達媒体となって方法論を拡散することで、専門家による知恵の専有からオープンにシェアする時代を切り拓いている。

マタニティハウスの試み

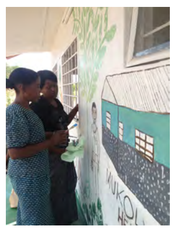
2011年 フィワレ村

2011 年６月完成 ／ザンビア、コッパーベルト州マサイティ郡フィワレ村
出資はユニクロなどの民間企業や個人寄付。支援者の賛同意欲を高めるデザインと、安く迅速に建てることが求められた。日本からの支援物資輸送に使ったコンテナを２台配置して中にベッドルームを設け、その間に妊産婦たちが交流できるラウンジと、背後にレンガ壁のバスルームを設けた。「古いコンテナは汚いから人が来ないのでは」という現地の不安を解消するため、地域住民 100 人を集めて外壁を美しく彩り愛着を持てるハウスに仕上げるワークショップを開催した。思い思いに摘んだ葉っぱをスタンプし、日本の支援者 100 名の名を書き込む盛大なイベントは多くの目にとまり、テレビや新聞のない地域における施設意義の周知に大いに役立った。また建物を自分達の手で完成させたことは彼らの大きな自信につながり、歌と踊りによる壮大なセレモニーが開かれた。開設後には多くの妊婦が滞在し、施設分娩の割合は 2010 年の 32.8%から 2013 年の 45.0% へと増加している。



2013 年 ムコルウェ村

2013 年 11 月完成 ／ザンビア、コッパーベルト州マサイティ郡ムコルウェ村
コンテナ１台を使った縮小版の建設。「隣村の二番煎じ」のイメージでモチベーションを下げないため、外壁デザインを住民から募る試みを新たに行った。「自転車に乗って施設へ向かう妊婦」「産前検診を受け安全な施設分娩を行う」など、彼らの出した施設分娩の効能についてのメッセージ図案を見栄えよくまとめることが問われた。線画、色塗り、柄付けなどそれぞれの得意作業によって役割分担して仕上げた外壁は、誰もが一目でその意味を理解できる素晴らしいものとなり、参加者は我が子のように建物を愛し、今でも人手不足の施設を手伝いに無償で通ってきている。また、他の村の計画を彼らができるためにワークショップを開き、敷地に合わせた配置案を模型と図面にまとめて建設業者に伝えるスキルを伝授した。「エントランスはアプローチに向かって開く」「プライバシーの必要な部屋は奥に」などの重要ポイントを彼らは歌と踊りにして覚え、次の計画案にそれらを完璧に反影し、驚くべき学習意欲と責任意識を見せてくれた。



2015 年 ムタバ村

2015 年９月完成予定 ／ザンビア、コッパーベルト州マサイティ郡ムタバ村
外務省の支援により新たに始まった３計画の１つ。歌と模型を使ったワークショップでは、住民のアイデアを配置計画に的確に迅速に反影することができた。また９月予定のワークショップには前の村の経験者がペインティングの手法を伝授する予定であり、着実にこの参加型の計画手法が実を結んできている。

まだまだ続く

2016 年カルウェオ村、2017 年ミカタ村と新たに２カ所での計画が予定されており、またより広い地域で手法を展開するためのデザインガイドブックと模型キットも制作中である。

繰り広げられるものがたり

まさか葉っぱでコンテナが生まれ変わるとは！初めての作業に興奮する人々。

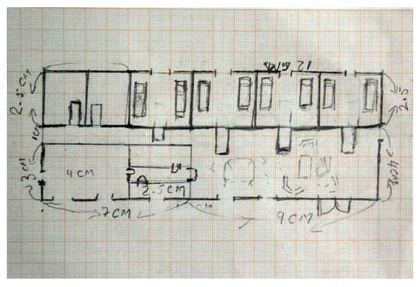
学校帰りの子どもたちも立ち寄って、楽しくペインティングに参加してくれました。

次の予定地のムタバ村からは、赤ん坊連れの女性がワークショプに参加してくれました。

壁に描きたいメッセージについて、村の人々に考えて下絵を作ってもらいました。

皆で手を貸しあいながら、葉っぱのスタンプを完成させてゆきます。

施設分娩がなぜ重要か、建物のファサードが人々の命を救うメッセージを伝えます。



３時間のワークショップで彼らが習得した、平面図の書き方。

初めての作図と模型づくり。グループで話し合いながら、プランを練ります。

初めてのペインティング。みな真剣に、心を込めて筆を進めます。

セレモニーでは、全ての参加者が盛大に歌って踊って、完成の喜びを分ち合いました。

敷地に合わせて機能をどう配置すればよいか、キットを使って誰でも簡単に考えられます。

次の予定地のムタバ村の配置プラン。それぞれ考えた理由を発表しました。

「自転車に乗せて奥さんを施設まで運ぶところ。」
男性の協力が不可欠というメッセージも、壁に描かれます。

「私たちが欲しいのは命を救う知恵。それはどんなに使っても無くならず、
広く伝えれば伝えるほど、多くの命を救い続けることができる。」

たった３時間のワークショップで、平面図の書き方から配置計画まで、
彼らは完璧に習得してくれました。

施設計画のプロセスと忘れてはならない重要ポイントを、
歌と踊りにしてみんなで覚えました。

リンク

一般社団法人マザー・アークテクチュア http://www.mother-architecture.org
公益財団法人ジョイセフ　http://www.joicfp.or.jp/jp/activity/where/zambia_project/

Youtube動画
是非ご覧
下さい！

http://goo.gl/D640ID

地域資源発信活用

「ご近所のぜいたく空間“銭湯”」プロジェクト

文京建築会ユース

代表　メンバー
栗生はるか／織田ゆりか , 石井渉 , 上田一樹 ほか

「文京建築会ユース」とは？

「文京建築会ユース」は東京建築士会、日本建築家協会、東京建築士事務所協会の文京支部からなる「文京建築会」の若手有志団体として 2011 年に発足しました。地域の見過ごされがちな魅力を建築的視点から再発見し、その価値を共有するために様々な角度から発信や活用の提案をしています。
2012 年からは地域のコミュニティ拠点「銭湯」にスポットを当て、文京区に現存する全 11 軒の取材をもとに「ご近所のぜいたく空間 “銭湯”」展を巡回開催。活動の最中にも次々と廃業してゆく銭湯を実測や見学会によって記録に残すと同時に、営業中の銭湯を支援するために多分野の専門家を招いた銭湯サミットの実施や老朽化した銭湯の耐震診断など、を行ってきました。活動の様子を収めたドキュメンタリー映画の製作のほか、他の地域団体と連携した横断的なイベントやプロジェクトが多数進行中。

文京区の狛犬全 60 体の調査 (2011,11,20)

「狛犬背くらべ」ポストカード

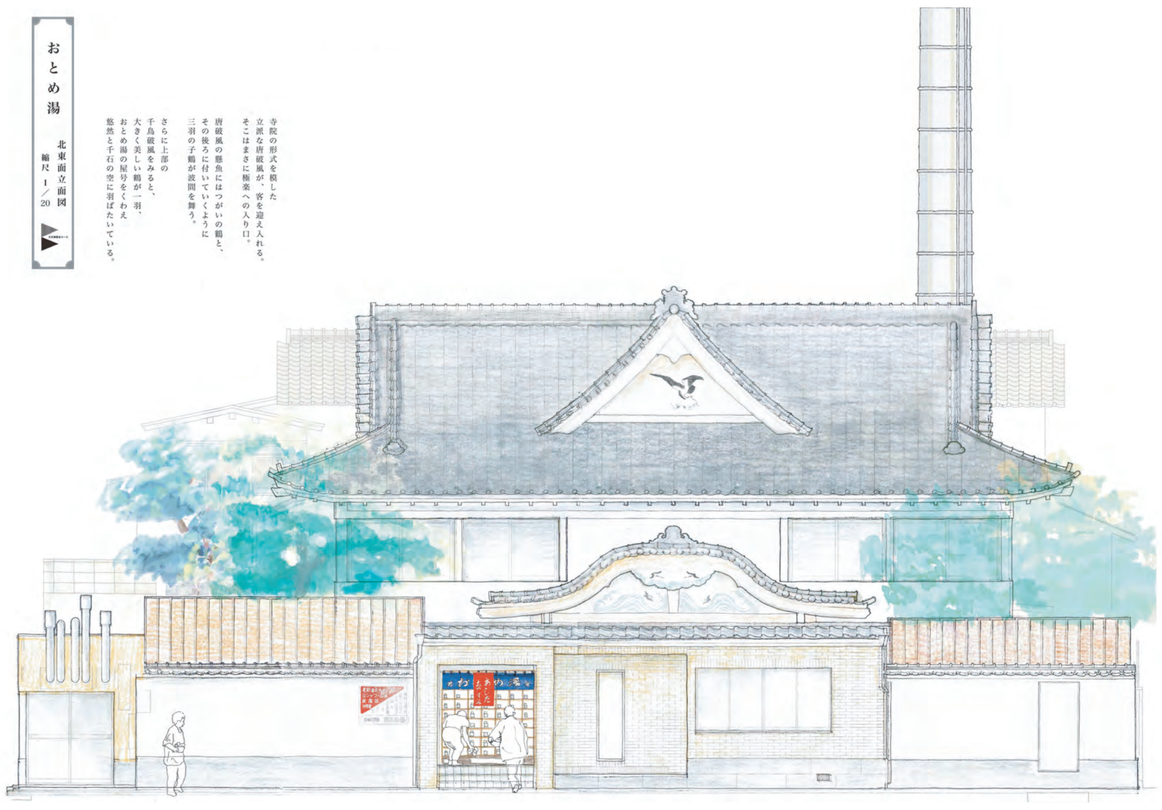
「文京見どころ絵はがき大賞」(文京建築会と共同開催)

区内のだんご屋調査 (2013,3,31)

魅力を再発見する

日常の風景には知っているつもりで気づいていない物事がたくさんあります。当たり前に佇む見過ごされがちなものに目を向ける活動を続けていた最中に出会ったのが廃業する「おとめ湯」。銭湯の調査を通じて、ひとつの建築にとどまらない地域資源や人々の相互関係、その損失の大きさが見えてきました。

「おとめ湯」実測調査 (2013,3,3 ～ 6,15)



「おとめ湯」立面図

中庭が美しい「おとめ湯」(千石・2013 年廃業)

「おとめ湯」裏方調査 (2013, 8, 22)

「ご近所のぜいたく空間 “銭湯”」展 , 文京シビックセンター (2013, 6, 21～24)

文京区の全銭湯 11 軒の写真集を製作・販売

新たな視点から発信する

建築や都市の視点から観察・記録した地域資源の魅力を広く共有するため、区内外５ヶ所を巡回する “銭湯” 展の開催や、地域の銭湯の写真集の製作・販売など、様々なメディアや表現方法で発信を行なってきました。この取り組みを通じて得られた多くの方々とのつながりが活動の基盤となっています。

ペンキ絵師 によるライブペイント (2013, 11, 9)

地域タウン誌での連載

活用を提案する

銭湯が全国で１日１件のペースで廃業する一方、若い世代からは価値の見直しの機運を感じます。見学会や分野を越えた話し合いの開催、存続や活用のための仕組みや耐震診断の実施、部分的な移設。過去をきちんと引き継ぐため、様々な立場の人々と協働して地域資源を持続可能とする解決策を提案しています。

新規住民向けに銭湯招待券を制作／不動産屋で配布

分野を横断して有識者を集めた「銭湯サミット」(2013, 11, 17)

多治見市モザイクタイルミュージアムへのタイル移設工事

「おとめ湯」見学会開催 (2013, 9, 1)

「月の湯」見学会開催 (2015, 5, 5)

SPEAC　林厚見　吉里裕也　宮部浩幸

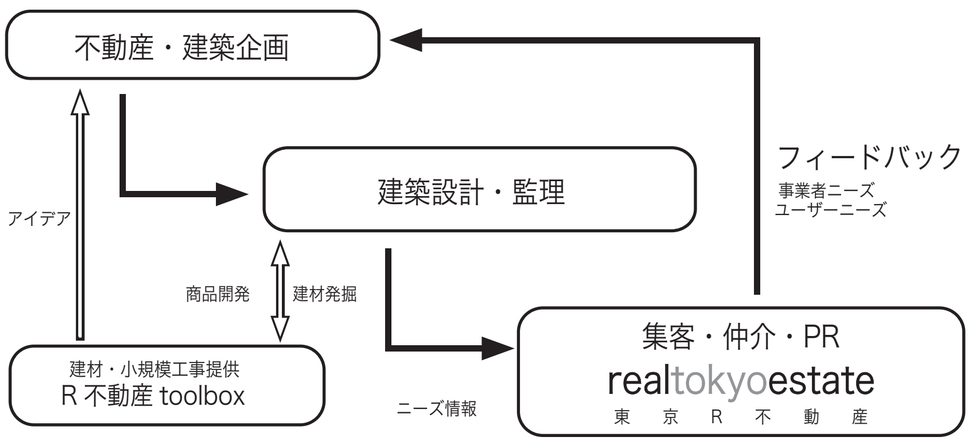
不動産企画、設計監理 、不動産流通のシームレスな融合による空間づくり

SPEAC の強みと守備範囲

空間デザインと不動産企画の融合

不動産企画と建築設計をシームレスに融合し、空間や場の仕掛けを作ることで事業者の抱える問題や社会の課題を解決してきました。都市空間の多くを占める「賃貸不動産」のデザインはマーケティングであり、商品企画でもあります。
SPEAC は企画、設計監理、集客・仲介・PR に一貫して関わることで一連を統合したデザインを提供しています。
集客・仲介から得られるユーザーの声をフィードバックした与件設定ができることが SPEAC の強みです。
集客・仲介・PR は弊社が運営する「東京 R 不動産」を通じて行っています。
さらに設計と不動産仲介を通じて見えてきた小規模リフォーム、リノベーションのニーズに応える「R 不動産 toolbox」を立ち上げ、「自分の空間を編集する」ためのツールとして建材や小規模工事のサービスを提供しています。

＊東京 R 不動産は不動産セレクトショップサイト。月間ページビューは 500 万 (グループ全体)。
OPEN-A との共同運営。



既存要素の再編で木造民家を賃貸向けに再生

1930 の家

業態　　：戸建住宅（賃貸）
構造／規模：木造／平屋建
事業主　　：個人
延床面積　：約 75m2

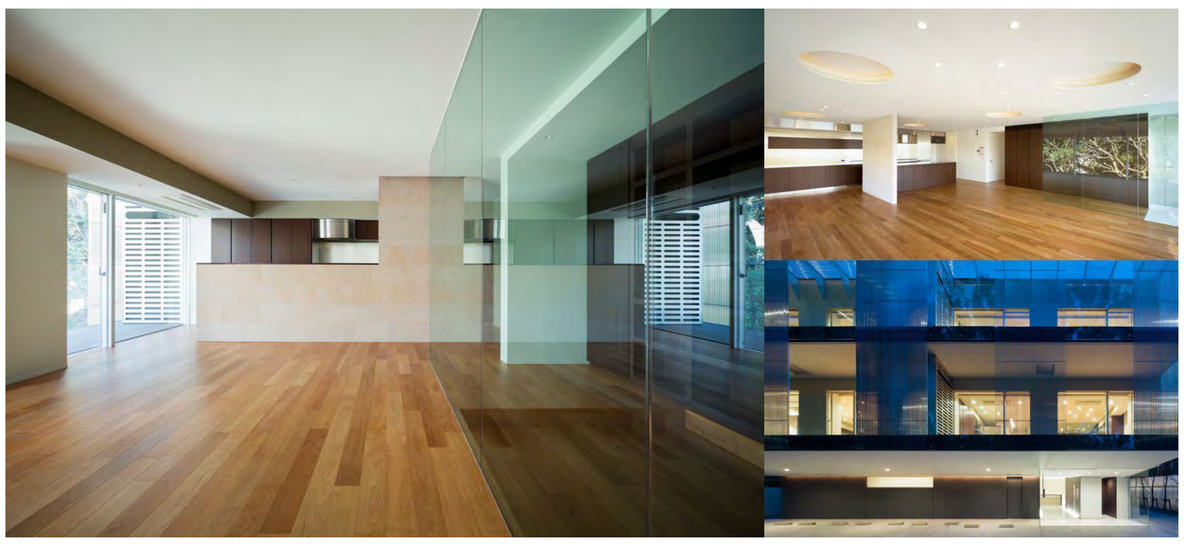
1930 年に建てられた木造民家のリノベーション。83 年という時間が作り上げた古さを価値に転換し、既存の伝統工法による仕上や古色を帯びた構造材の美しさと新しい要素が違和感なく空間を作る。
周辺マンションよりも高水準で賃貸中 。

マーケットポジションチェンジと空間デザインのリレー

THE SCAPE

業態　　：サービス付アパートメント
→シェア SOHO→高級集合住宅
構造／規模／履歴：RC+S 造／地上５階／
新築時：隈研吾建築都市設計事務所、
改修時：成瀬・猪熊建築設計事務所
事業主　　：株式会社レーサム
延床面積　：1073.89m2

空間デザインをリレーするようにこれまでの空間デザインの積み上げを活かして空間を作り上げた。55 平米のユニットを２つ繋いで１戸１２０平米以上の住戸に改修。マーケットにおけるポジションを大胆に交え、不動産的価値を高めた。



マーケットニーズを捉え、戸建てを２分割した長屋

目黒のテラスハウス

業態　　：住宅→テラスハウス（賃貸）
構造／規模：木造／地上２階建
事業主　　：個人
延床面積　：約 130m2

空家になりかけた住宅の再生。一棟丸ごとでは賃料に上限があるため、賃料収入が向上し、かつ、借り手のつきやすい規模になるように２分割し、庭付の長屋とした。周辺マンション相場よりも高い水準で賃貸中。

コンバージョンによる事業再生

ビジネスインのむら

業態　　：ビジネスホテル
→オフィス（シェアオフィス含む・賃貸）
構造／規模：RC 造／地上４階地下１階建
事業主　　：法人
延床面積　：約 269m2

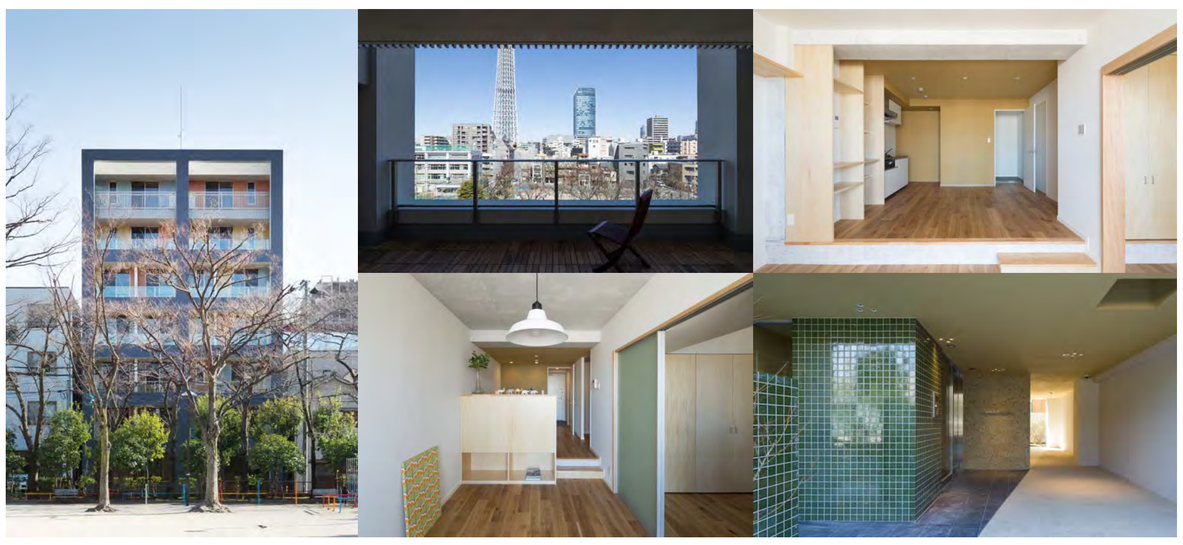
新宿駅近くのビジネスホテルをシェアを含むオフィスに転用し事業再生した。運営に関わるオーナーの状況とマーケットから最適な活用方法を提示し、オーナー家族や地域の歴史を活かしたデザインを施した。

見晴らしを価値に変える集合住宅

レスピール押上

業態　　：集合住宅（賃貸）
構造／規模：RC 造／地上７階
事業主　　：株式会社レーサム
延床面積　：931.51m2

公園とスカイツリーを見はらす 17 戸の集合住宅。北側にある公園やスカイツリーの眺めを強みとするべく全ての住戸を北向きに計画。窓辺にいくと下がる床の段差で住戸の奥からでも眺望が楽しめる。
周辺相場の 1.3 倍の賃料で完賃



はやしあつみ 林厚見
よしざとひろや 吉里裕也
みやべひろゆき 宮部浩幸

これがぼくらの竣工写真。ハンディハウスのデザインは時には現場、時には完成した部屋での打ち上げで施主と笑顔で集合写真を撮れるような関係性を作ることです。

HandiHouse project

ぼくらの合言葉は「妄想から打ち上げまで」
デザインから工事までのすべてを自分たちの「手」で作りあげる建築家集団です。

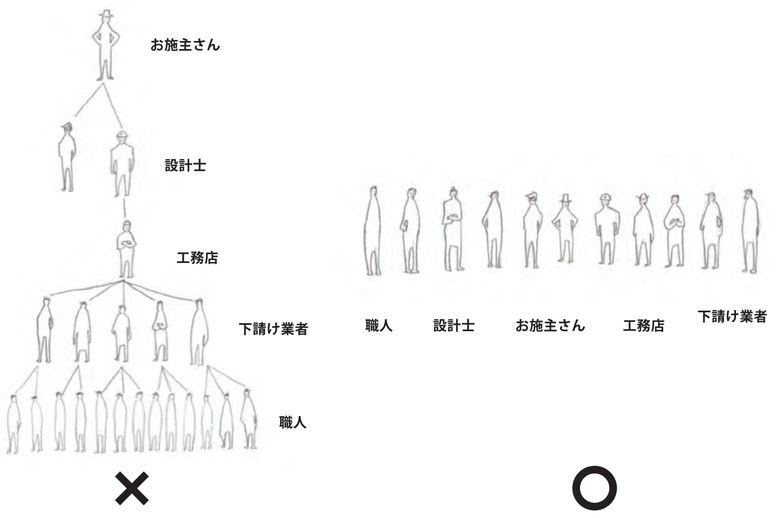
施主をすべてのプロセスに巻き込み、共有することで、家と住まい手と作り手の本来あるべき関係性を紡ぎ出す こと目標としています。この先の生活をイメージしながら設計をして、共に工事をして作り上げ、最後完成したらビ ールで乾杯。ひとつのチームを組むように、施主と一体となった家作りを目指しています。商品と化してしまった日本の住まい。より自由に欲しい暮らしをイメージして、DIY で愉しく作れるんだと気付くこ とができれば、空間の消費者でしかなかった人が本物の住まい手になることができるのです。誰でもより主体的に家に関われるように意識を変えるきっかけを与えられる建築家でありたいと考えているプロジェクトです。

坂田裕貴 cacco design studio　中田裕一 中田製作所　山崎大輔 DAY’S　加藤渓一 studioPEACEsign　荒木伸哉 サウノル製作所

■ ものつくりを通じてひとつのチームになることを目指す

共に考え、共に作る。ものつくりの愉しさや大変さを共有することで、お互いの立場を越えて横並びのチームになることができます。

・縦の関係性 / 従来のお金が作る上下関係　　・横の関係性 / ひとつのチームとなる



■ 家と向き合う意識の変化

つくる過程を共有し、家がどんな風にできているかを知ると家の存在がぐっと身近になります。作り方や素材がわかることで自分で手を加える際の自由度も上がります。お引き渡しが終わってから丸ノコとインパクトを買ってしまいました！という連絡は珍しくありません。
建築家が関わることのできる家の完成はスタートでしかありません。そのスタートまでの準備期間の間に意識を向上させることができれば、この先数十年と続く住まいとの付き合い方は大きく変わるはずです。

土間として作った部屋が住み始めたら DIY 工房になっていました。そこで作ったローテーブル。

■ 施主の巻き込み方

ぼくらにとって施主による DIY 工事は見積りの中でコストダウン項目になります。施主の作業分に関しては、施主に作業代金をお支払いします。関係としては元請けと下請け業者さんのようです。お金を頂かない分、ぼくらが手伝うということもありません。仕事を任せることで「責任」を与え「本気」になってもらいます。施主が動かないと家が完成しないのです。仕事がお休みの時に体験的に「参加して頂く」ということはしません。仕上げることの大変さ、愉しさ、喜び。そうして出来上がった空間は思い出のつまった唯一無二のものとなるはずです。そうして現場に来てもらう機会を増やし、積極的に解放することで作り手の顔を見える化します。するとぼくらの作ったものに対しても愛着を持ってもらえる。作っている過程でもう少しこうしたいというリクエストにもすぐ対応することができる。このやり方だとクレームも極端に少なくなり、あら探しをするような施主検査を行わなくても済みます。

塗装は誰にでも参加しやすい工事のひとつ。家族みんなで仕上げたという記憶で包まれます。

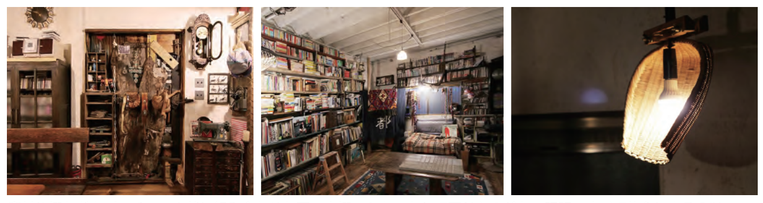
レクチャーを受けながらコンプレッサーで床を貼ります。時には施主のお父さんとお孫さんが一緒に床貼り。

子供にもものつくりの愉しさを。小さい頃の家作りの経験がこれからの住まいへの影響は計り知れません。

■ 実例・日野の家

施主はハンディハウスとの家作りを通じて家と向き合う「勇気」と「覚悟」を持つことができたと言っていました。ここでぼくらが作ったのは床、壁、キッチン、お風呂など生活に必要最低限のものだけ。個性的な壁の塗装や扉、照明、本棚の数々はご家族自ら作り上げたものです。施主はあるインタビューで「素人がプロに口を出していいのかなという気持ちがあったんですよね。でも、施主ももっと意見を言っていいし、やっていいんだという気持ちに変わっていったんです。」と。「素人は手を出せない」という固定概念が共に作ることで消えてなくなり、オリジナルと愛着で溢れた空間となりました。
この家は終わりを見ません。訪れる度に新しいものが生み出されています。住人が主体的に関わることで終わることのない家作りという物語。ぼくらの理想とする家の形です。

リビングからキッチン、ダイニング。



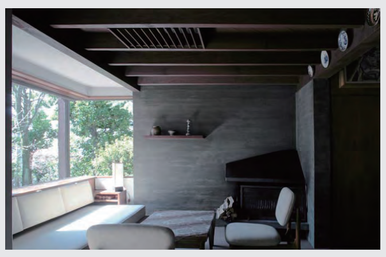
廃材や棚などをパッチワーク状に組み合わせた扉、本棚、ひとつとして同じものがない照明。すべて施主による DIY。

近代住宅遺産の継承に関する活動
一般社団法人住宅遺産トラスト

（建築士：野沢正光、松隈章、田村誠邦、新堀学）

第15回 園田高弘邸「音楽と建築の響き合う集い」

園田高弘邸 (1955 年) は、建築家吉村順三 (1908-1997) がピアニスト園田高弘 (1928-2004) 夫妻のために設計した「自由が丘の家」として知られる吉村初期の名作住宅です。本会は、園田春子夫人と地域住民および建築専門家の協力により、この名建築を次代へ継ぐために 2008 年秋に発足。以来、若手演奏家の音楽会や建築の魅力を語るレクチャーを企画して、その保存と活用の途を模索してまいりました。
2012 年秋、幸いな出会いがあり、園田高弘邸は、新しい住まい手の方へ継承されることになりました。
新たな１ページを開く第１５回「継承の集い」は、春子夫人のもとに実現した一期一会のピアノ四重奏です。
感謝を込めてお贈りいたします。



■日時　２０１３年５月２６日（日）　１４時３０分 開演　（１４時開場）
■会場　園田高弘邸　（目黒区緑が丘）
■演奏　L.ベートーヴェン　ピアノ四重奏曲 変ホ長調 作品16
J.ブラームス　ピアノ四重奏曲第３番 ハ短調 作品60

高橋 礼恵 Norie Takahashi（Piano）
ピアニスト。桐朋女子音楽高校在学中に園田高弘賞コンクール第４位、日本音楽コンクール第２位、エリザベート王妃国際コンクールファイナリストなどの受賞を経て渡独。２０００年よりベルリン芸術大学在籍。シュナーベル国際コンクール第２位、シューベルト＆現代音楽国際コンクール優勝。第１回ボン国際ベートーヴェンコンクール第２位併せて２１世紀音楽解釈特別賞。室内楽、リサイタルと共に国内外のオーケストラと共演。ベルリン在住。

森下幸路 Koji Morishita（Violin）
ヴァイオリニスト。８歳で米国ニューオリンズフィルハーモニー交響楽団と共演。桐朋学園大学音楽学部卒業。米国シンシナティ大学（特別奨学生）で最優秀賞（オーナーズ表彰）を受賞。安田謙一郎弦楽四重奏団のヴァイオリン奏者、仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター。現在はソロ活動と共に北欧アンサンブルコンサートマスター、サイトウキネンオーケストラメンバー。大阪シンフォニカー交響楽団首席ソロコンサートマスター。

大山 平一郎 Heichiro Ohyama（Violin）
指揮者。ヴィオリスト、室内楽奏者、教育者。東洋人として初のロスアンジェルス交響楽団首席ヴィオラ奏者。同時期よりクロスロード学校弦楽合奏団の指揮者となり米国演奏界の最前線を担う人材を多数輩出。１９９１年には京都市交響楽団で日本デビュー。世界各国のオーケストラや音楽祭にて客演を重ねる。現在、米国のサンタ・バーバラ室内管弦楽団音楽監督兼常任指揮者。CHANEL Concert Seriesアーティステック・ディレクター。TheChamber Playersメンバー。

辻本 玲 Rei Tsujimoto（Cello）
チェリスト。東京芸術大学音楽学部器楽科を首席で卒業（アカンサス音楽賞受賞）。シベリウスアカデミー（フィンランド）、ベルン芸術大学（スイス）に留学。　２００９年第２回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第３位入賞（日本人最高位）、併せて「日本人作品最優秀演奏賞」を受賞。（ＮＨＫ－ＢＳチェロ・エスプレッシーボ！～国際コンクールに懸ける青春～」としてオンエア。新日本フィルハーモニー交響楽団をはじめ多数のオーケストラと共演。１７２４年製作のアントニオ・ストラディヴァリウスを貸与されている。

■懇親会　継承者ご紹介と一般社団法人住宅遺産トラスト設立のお知らせ

ご参会いただける際は、下記までご連絡いただきたくお願い申し上げます。
E-mail:sonodatei@gmail.com あるいは TEL:090-2407-3191（吉見）

主催： 園田高弘邸の継承と活用を考える会　共催：自由が丘街づくり会社ジェイ・スピリット、NPO 法人玉川まちづくりハウス　写真：齋藤さだむ
後援： 自由が丘住区住民会議、自由が丘町会、緑が丘西地区自治会、自由が丘商店街振興組合　協力：吉村順三記念ギャラリー

「新・前川國男自邸」セミナー
–その価値と将来を考える–

「新・前川國男自邸」1階書斎（撮影：畑 亮、1986年）

企画主旨
前川國男（1905-1986）は、戦前戦後の日本の近代建築をリードした建築家で、上野の「東京文化会館」や「東京都美術館」などの作品で知られています。目黒にある「新・前川國男自邸」は、木造の「旧・前川國男自邸」（1942）が建っていた同じ敷地に、前川夫妻の終の住まいとして設計され、1974年に竣工した鉄筋コンクリート造の住宅です。
前川は、この自邸に、亡くなるまでの12年間、暮らしていました。彼は、この建物の設計に大きな思い入れがあり、大量のスケッチが残されています。また、その空間構成の考え方には、木造の旧邸を継承しつつも、ル・コルビュジエからの強い影響がうかがえ、自邸であるからこその、根本にあった建築思想が読み取れる大変興味深い作品です。前川の没後、弟の前川春雄（元・日本銀行総裁）が引き継ぎ、外国人の住まいとして、長く住まわれてきました。しかし、その後、所有者が変わり、将来的には、その存続が危ぶまれる事態となっています。
こうした中、この建物をこよなく愛する現在の住まい手の協力を得て、広くこの建物の価値を共有し、その将来像を共に築いていくことを目的に、セミナーと見学会を開催します。
当日は、この建物の設計担当者だった長澤甫明氏、前川事務所の元所員で、マッキンゼー・アンド・カンパニー東京支社長を務めた社会システムデザイナーの横山禎徳氏、近代建築の保存活動で活躍されている青山学院大学教授で建築史家の鈴木博之氏をお招きし、多角的にこの建物をめぐってお話しいただきます。
近代建築の歴史の重要な一端を担うひとつの名作住宅として、また、建築家自身の自邸という意味からも、この「新・前川國男自邸」は、大きな価値を有するものであり、あちこちで同じような事例が増えてくることが予想される中、これを契機に、広く遺産としての住宅という視点についても、考えます。

— 2013

2012 年頃、それまでメンバー各人が関わってきた活動が繋がって「住宅遺産トラスト」が発足した

展覧会「昭和の名作住宅に暮らす」
- 次世代に引き継ぐためにできること -
吉村順三、吉田五十八、前川國男による三つの住宅

吉村順三「自由が丘の家（園田高弘邸）」（1955 年）

吉田五十八「旧倉田邸」（1955 年）

前川國男「新・前川國男自邸」（1974 年）

現在、築 40 年をこえた昭和の名作住宅が、それぞれの事情により、ひっそりと姿を消しつつあります。そのなかには、昭和という時代を代表する、歴史的、文化的価値が高い住宅も含まれています。こうした名作住宅の多くは、まだ十分に住める状態でありながら、個人の所有であるために継承が難しく、保存を望む人々の思いや活動も空しく、解体される例が後を絶ちません。
私たちが今暮らしている住宅は、建築家や施工者たちの技術的、芸術的創意の蓄積の上に成り立っています。その時代を代表する優れた住宅を失うことは、そこに蓄積された技術や暮らしの知恵だけでなく、貴重な建築文化を失うことを意味します。そして、時の試練に耐え、美しく年月を重ねた住宅が壊され、成熟した街なみや緑を失うことは、その地域で暮らす人々にとって、大きな損失となりうるでしょう。
このたび、吉村順三、吉田五十八、前川國男が設計した三つの名作住宅ー「自由が丘の家（園田高弘邸）」（1955）、「旧倉田邸」（1955）、「新・前川國男自邸」（1974）ーをとりあげ、展覧会を開くことになりました。どの住宅も、現在、保存・継承の問題に直面し、住み継いでくださる方を探しています。
本展覧会を通して、この三つの名作住宅の「住まい」としての魅力を多くの方々に知っていただき、保存を前提に購入してくださる方を募ると同時に、こうした名作住宅を次世代に引き継ぐための仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えています。

◆会期：2012 年 9 月 21 日（金）～ 10 月 21 日（日）
開廊：木・金・土・日　時間：13:00 ～ 18:00
◆場所：ガレリア・アビターレ (堀部安嗣設計)
東京都世田谷区玉川田園調布 2-13-1
◆見学会：旧倉田邸　9 月 21 日（金）15:00 ～ 17:30
10 月 20 日（土）14:00 ～ 16:00
園田高弘邸　9 月 29 日（土）14:00 ～ 16:00
10 月 13 日（土）14:00 ～ 16:00
参加費　2,000 円（解説付き）※要申込
◆サロントーク（園田高弘邸）：桐島洋子＆桐島かれん
9 月 30 日（日）　15:00 ～　参加費　3,000 円※要申込
◆申込・問い合わせ先：jyutakuisan@gmail.com
03-5483-3335（コミュニティー・ハウジング）

◆主催：「昭和の名作住宅に暮らす」展実行委員会
伊藤雅春、木下壽子、木村常在、小西玲子、新堀学、清家剛、田村誠邦、富田玲子、野沢正光、林泰義、松隈章、森かおり、山中新太郎、山本秀代、吉見千晶
◆監修：野沢正光、松隈洋
◆写真：齋藤さだむ　◆映像：吉村行雄
◆協力：飯塚温子、尾関雅子、園田春子、E.コール、吉村隆子、大井隆弘、天野伸弥、馬場未織、長島早枝子、森桜、吉村順三記念ギャラリー、東京藝術大学大学美術館、前川建築設計事務所、自由が丘商店街振興組合、自由が丘まちづくり会社ジェイ・スピリット、NPO 法人地域再創生プログラム、NPO 法人玉川まちづくりハウス
◆後援：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築士会連合会、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、DOCOMOMO Japan、Head 研究会
◆連絡先：jyutakuisan@gmail.com
◆Facebook ページ：https://www.facebook.com/heritagehousing

一般社団法人発足のきっかけとなった展覧会「昭和の名作住宅に暮らす」　レーモンド「富士見の家」／「代田の町家」における坂本一成レクチャー　吉村順三設計旧園田高弘邸での演奏会／遠藤新設計加地邸公開

— 2013 — 2014

Public Viewing and Exhibition of Materials Featuring the Vision of Arata Endo's Design
遠藤新が設計した幻の名作別荘の公開と資料の展示

加地邸をひらく
継承をめざして

Opening of the Kaji Villa:
Looking Towards a Living Legacy

会　期＝２０１４年１０月～１１月の土・日・祝日（１０時～１６時）
※月曜～金曜は閉邸／１１月１６日はシンポジウムのため１２時で閉邸
会　場＝加　地　邸（神奈川県三浦郡葉山町）
遠藤新設計１９２８年（昭和３年）竣工　入場料＝１０００円（学生＝５００円）

Period: Saturdays, Sundays, and holidays in October - November, 2014 (10 a.m. - 4 p.m.)
Location: Kaji Villa (Hayama-cho, Miura-gun, Kanagawa)
Built in 1928 Designed by Arata Endo　Admission: 1000yen (Student: 500yen)

F.L.ライトの愛弟子、遠藤新の名作住宅の公開

加地邸をひらく 2015 Spring

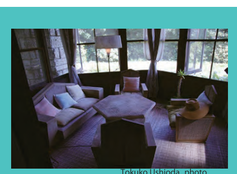
暮らしの記憶
a Living Diary

加地邸はいつも静かに寝ているようでした。そこはまるで千年も湖底にあったかのように、あわい光の中に沈んでいて、ですから、撮影はまるでタイムマシンで遠い時代に来てしまったかのような不思議な時間そのものでした。
それは、今も、いつも、来館する度に、どなたもが深呼吸をしながら味わうことの出来る 遠藤アラタのまほうなのです。
（島尾伸三）

Opening of the Kachi Villa and Exhibition of Tokuko Ushioda & Ikuko Kachi

会 期：２０１５年4月25日～5月17　日の土・日・祝日
（全12回／平日は閉邸）
時 間：13時 ～16時
会 場：加地邸（神奈川県三浦郡葉山町一色）
遠藤新設計／1928年（昭和3年）竣工
入場料：1000円（学生 500円）

Period: Saturdays, Sundays, and holidays
in 25 April - 17 May, 2015 (1 p.m. - 4 p.m.)
Location: Kachi Villa (Hayama, Miura-gun, Kanagawa)
Built in 1928 Designed by Arata Endo
Admission : 1000yen (Student: 500yen)



Tokuko Ushioda_photo

Ikuko Kachi_textile

23rd Hayama Art & Music Festival 2015

第23回葉山芸術祭参加企画　主催：加地邸保存の会　共催：葉山芸術祭実行委員会

一般社団法人 住宅遺産トラスト

理事：野沢正光（代表）
木下壽子、小西玲子、新堀学、田村誠邦、林泰義、山本秀代、吉見千晶
監事：木村常在、松隈章
事務局：横田幸子、吉見千晶
顧問：内田青蔵、尾谷恒治、後藤治、陣内秀信、富田玲子、藤森照信、松隈洋

「一般社団法人宅遺産トラスト」は、文化的、歴史的、社会的に価値ある住宅を次世代へ継承することを目的として、2013 年 2 月に設立されました。
どんなに貴重な建築であっても、個人の所有であるという点で住宅の継承はきわめて難しいテーマです。高齢化、相続、税金、売買の問題、時を経た住宅のメンテナンスなど、様々な厳しい状況が個人による維持を妨げ、大切な建物と環境が消失していく例があとを絶ちません。優れた住宅を失うことは、貴重な技術や空間を失うにとどまらず、住まい手や地域の記憶、景観を失うことでもあります。
「住宅遺産トラスト」はこうした課題に対応するための窓口として、建築、不動産、法律などの専門家、さらに地域社会と連携し「住まい手に寄り添った継承支援」を実現したいと考えています。

● 連絡先：東京都世田谷区玉川田園調布 2-13-1-101　TEL:03-3721-1044
http://hhtrust.jp/　jyutakuisan@gmail.com

— 2015 —

Photo 齋藤さだむ

© Heritage Houses Trust 2015